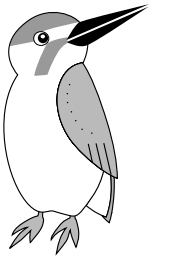


市政に対する 一般質問

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をたずねることができるものです。
3月定例会では、3月17日・18日の本会議で14人の議員から質問が行われ、終始熱の入った論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です（掲載は質問順、5面まで続きます）。



市の鳥「カワセミ」

現況を受け市総合計画の見直しなくして進めるか

綾風会 新倉 市造

問 現在の総合計画は平成十三年度中に市民が住んで良かったと言える市にするため策定された。しかし、今日の不況が続く、国庫補助金の削減や税源移譲の問題が危惧される中、計画の見直しは必要なのか。また、厚木基地の返還促進については、米空母から艦載機を直接硫黄島に降ろす直結方式や騒音の環境基準の線から国や関係機関に要請してはどうか。

答 長引く景気低迷などから大変厳しい財政状況ではあるが、市税はもとより国庫補助金等の特定財源の確保に努め、実施計画に基づき事業を実施している。実施計画は二年ごとのローリング方式で見直ししており、新たな財政推計を基に平成十五年度から十七年度までの三年間の見直しを図った。厚木基地の航空機騒音問

地域福祉計画策定に向けたワークショップ等の計画は

あやせ市民会議 安藤多恵子

問 地域における社会福祉を形成するための地域福祉計画の策定が始まったが、この計画の趣旨は、福祉

題については、超過密化した市街地にある基地は移転すべきとして、その整理・縮小・返還を基本姿勢に積極的な取り組みを行っている。また、農業振興策としては、遊休農地の利用集積を図るとともに農産物直売施設を設置し地産地消を進めていく。

夢のある新時代あやせプラン21の進ちよく状況は

新政会 徳永 時孝

問 市長の平成十五年度における施政方針により、今期の綾瀬市が進むべき方向性が示された。具体的な主要施策のほかに、厚木基地の騒音問題あるいは二十一世紀における地域経済の浮揚、雇用の更なる創出と地域活性化に向けた綾瀬インターチェンジの取り組み、また、タウンセンター区域内の商業施設誘致の具現化など、今後ますます複雑化、多様化するライフスタイルに適合するための施策が打たれたものと評価する。そこで、市長の所見として、今期の重要ポイントと計画の進ちよく度は、また、市制施行二十五周年を迎える

三計画を統合し包含する社会福祉の総合計画であり、今後の社会福祉は地域福祉を軸に展開すると言われている。シンポジウムや各地区のワークショップの実施により地域課題の掘り起こしを行ったが、どのような計画により地域福祉を推進していくのか。生涯学習の講座と連携させて、各地域の個人や団体をコーディネーターとする地域の核となる人材を育成し

答 平成十五年度は、特に市民の目線に立つて、市民福祉の向上を目指し、環境、福祉、教育、安全で快適な都市など各分野にわたる諸施策を重点事業として積極的に推進する。進ちよく度については、新時代あやせプラン21における各分野の事業を計画どおり実施しており、各種事務事業の妥当性、達成度や成果を判断しながら進行管理を行っている。市制施行二十五周年を迎える節目の年の特筆点は、記念講演会の開催、市史ダイジェスト版の刊行、市勢要覧の発行のほか、綾瀬いきいき祭りなどの各事業を二十五周年冠事業として、その充実を図っていく。

開校以来立ち遅れている城山中学校周辺の道路整備を

あやせ市民会議 内藤 寛

問 早川城山特定土地画整理事業地内にすばらしい街並みが出来上がっており、瀬端橋からこの地域に通ずる市道四七六号線も平成十五年には整備完了と聞いている。このような進展を見る一方で、隣接する城山中学校の周辺道路の整備については、再三の要望にもかかわらず開

校以来二十六年になる今も立ち遅れたままである。生徒の通学や部活動はもとより市民生活にも支障を来しているが、この状況をどう考えているのか。また、ここにきて幸い地権者からも整備を望む声があがっている。是非この好機を逃さないよう早急に取り組みむべきと思うが。

五年度の道路整備計画に基づき地元調整を始めたものの、境界が確定できず、拡幅整備に至らなかったが、平成十三年度から用地調査等を実施する中で徐々に境界が確定しており、今後とも関係地権者等に協力願うと共に財源の確保に努め整備していく。また、北側及び東側の外周道路の市道四九四号線等は、現在、道路拡幅にかかる学校用地の財産処分を調整しており、一日も早く外周道路の全路線整備が完了するよう努力する。

綾西小学校への通学路の安全対策を図るべきでは

公明党 出口けい子

問 早川城山地区では、新住民の転入により綾西小学校に通う児童が急増しているが、通学路の安全対策をどのように図っていくのか。道志

会の東側の道路は、市役所前の混雑を避ける車が抜け道として使っており、通学時間と重なって大変危険な状態のため、早急に安全対策を講ずるべきでは。また、天神森道南側の道路の舗装整備や階段への手すり設置、新武者寄橋の歩車道間にガードレールの設置など、利用者の安全を守るという観点から、道路の安全対策を講じるべきではないか。



4月15日から25日まで市美術協会の絵画展が開催されました。会場には、油彩画や水墨画など62点の力作が展示されました<市民展示ホール>

答 通学路の安全対策については、交通・防犯の観点から学校と関係各課が現場調査をし、相互に連絡調整を図るとともに、学校では児童に交通安全の指導をしている。道志会の東側の道路は、幅員が六メートルあるので路側帯の設置は可能と考えている。天神森道南側の道路については、拡幅整備に一部で反対があったため現道の中での整備となったものであり、階段については、耕作者の便宜を図るために設置したもので、急傾斜でもあり通学路には適さないとと思われる。また、新武者寄橋についても、構造的に床版が薄いためガードレールの設置は困難と思われる。（他に、学校図書館の整備充実を質問）